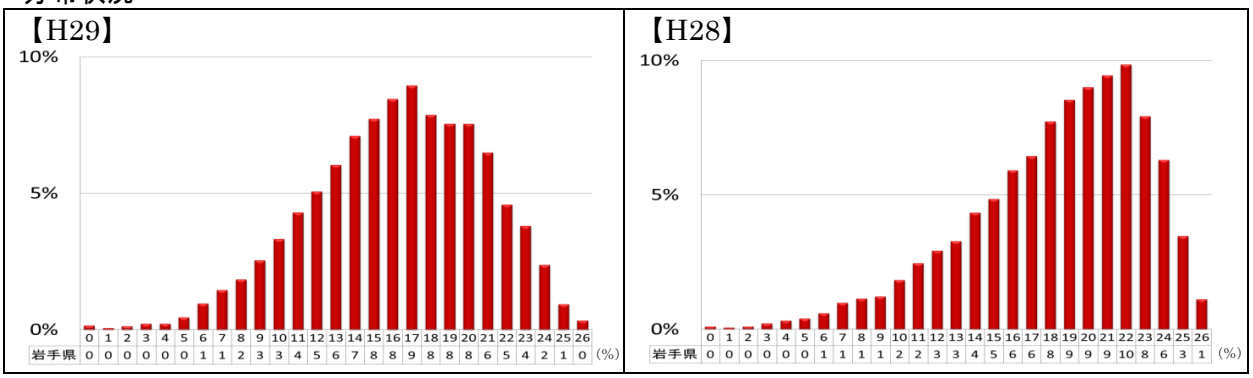
平成 29 年度学習定着度状況調査　指導資料　　平成 29 年 12 月　発行　岩手県教育委員会

授業改善の手引　中学校第２学年国語

1　調査結果

(1)　分布状況



○　問題数は昨年度と同じで，正答数の最頻値は 17 問，平均正答数は 16 問です。昨年度の分布と比較して山が若干左に移動しています。また，正答数 17 問～20 問の中間層の割合は変わりませんが，21 問以上の層が減り，8 問～16 問の層が増えています。

（正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数）

(2)　領域等の正答率

領　域　等		正答率 （　）は H28，〈　〉は H27		
話すこと･聞くこと	（ 5 問）	58％	(74%)	〈67%〉
書くこと	（ 2 問）	63％	(55%)	〈62%〉
読むこと	（ 8 問）	55％	(57%)	〈53%〉
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	（11 問）	70％	(81%)	〈76%〉
活用	（ 7 問）	50％	(56%)	〈51%〉

(3)　結果概要

● 「話すこと・聞くこと」領域の正答率は年々上昇している状況でしたが 58％と下降しました。特に，「話の内容の大体をとらえて聞くことができる」の正答率は 24％と落ち込みがみられました。

● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「敬語の働きについて理解し，正しい敬語に直すことができる」問題の正答率は 25％とこれまでよりも低くなり指導を見直す必要があります。

○ 「書くこと」領域の正答率は 63％と昨年度より 8 ポイント上回りました。記述式の無解答率は昨年度より 2 ポイント減少しました。自分の考えの根拠を資料から探し，資料の内容を根拠に挙げながら書く問題の正答率は昨年度より 11 ポイント上回り，改善がみられます。

● 「読むこと」領域の正答率は 50％台が続いており，引き続き指導の工夫が必要な状況です。

● 活用を意識した問題においては，「読むこと」領域の「文章の展開を確かめながら要旨をとらえる」問題の正答率は 36％であり，昨年度を 1 ポイント上回ったものの課題が継続しています。

(4)　経年比較問題の状況（○改善，◇改善傾向，●課題が継続，▲は前回調査との比較ﾏｲﾅｽを表す）

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
● 4(話・聞)	78	3	●23(読)	36	1
●13(伝国)	52	▲27	●24(読)	46	▲3
●20(読)	60	▲19	○26(書)	60	11

○　小問 26 は，課題が継続していましたが，改善が見られる状況です。

●　小問 24 は，正答率が 50％前後と改善は徐々に見られてきているものの，引き続き，意識して指導を続けていく必要があります。

（5） 小問別正答率

問題番号 大問	中問	小問	通し番号	調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択No. 1 選択	2 選択	3 選択	4 選択	5 誤答	6 正答	0 無解答
1	(1)	ア	1	話の内容の大体を捉えて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	41					56	41	3
		イ	2	話の内容の大体を捉えて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	24					68	24	8
	(2)		3	話の内容の大体を捉えて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞		93	93	5	1	1	0		0
	(3)		4	インタビューの仕方に気をつけて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞	経年	78	2	6	78	13	1		0
	(4)		5	話の中心を捉えて聞くことができる。	2年「話・聞」(1)エ	話・聞		52					42	52	6
2	(1)	①	6	漢字「迫る」を正しく読むことができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		94					4	94	2
		②	7	漢字「渡航」を正しく読むことができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		68					21	68	11
		③	8	漢字「昇降口」を正しく読むことができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		95					4	95	1
	(2)	①	9	漢字「包む」を正しく書くことができる。	2年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		78					13	78	9
		②	10	漢字「勤務」を正しく書くことができる。	2年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		61					25	61	15
		③	11	漢字「立候補」を正しく書くことができる。	2年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		43					39	43	18
3	(1)		12	漢字の部首について理解することができる。	2年「伝国」(1)ウ(ア)(イ)	伝国		91	1	3	4	91	0		0
	(2)		13	文の成分の関係について理解することができる。	2年「伝国」(1)イ(ウ)	伝国	経年	52	15	52	30	2	1		1
	(3)		14	敬語の働きについて理解し、正しい敬語に直すことができる。	5・6年「伝国」(1)イ(ク)	伝国		25					59	25	16
	(4)		15	熟語の組み立てについて理解することができる。	5・6年「伝国」(1)イ(エ)	伝国		91	91	5	2	2	0		0
	(5)		16	故事成語の意味について理解することができる。	1年「伝国」(1)イ(ウ)	伝国		70	6	11	70	13	0		1
4	(1)		17	登場人物の行動から、心情を捉えることができる。	2年「読」(1)イ	読		85	85	4	6	5	0		0
	(2)	A	18	登場人物の行動から、心情を捉えることができる。	2年「読」(1)イ	読	活用	54	15	54	4	25	1		2
		B	19	登場人物の行動から、心情を捉えることができる。	2年「読」(1)イ	読	活用	37					35	37	29
	(3)		20	文章の表現の効果を捉えて読むことができる。	2年「読」(1)ウ	読	経年	60	15	16	7	60	1		2
5	(1)		21	文章の展開に即して内容のつながりを捉えることができる。	2年「読」(1)イ	読		67	16	2	13	67	1		1
	(2)		22	文章の展開に即して内容を捉えることができる。	2年「読」(1)イ	読		59	8	59	19	11	1		2
	(3)		23	文章の展開を確かめながら要旨を捉えることができる。	2年「読」(1)イ	読	経年活用	36					35	36	29
	(4)		24	段落の役割を押さえながら、文章の構成や展開を捉えることができる。	2年「読」(1)ウ	読	経年	45	7	23	45	21	1		3
6			25	資料の内容を読み取り、自分の立場を明らかにして書くことができる。	2年「書」(1)イ	書	活用	67					16	67	18
			26	資料から課題を見つけ、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる。	2年「書」(1)ア、ウ	書	経年活用	60					21	60	19
					全体正答率			63							

２　指導のポイント

(1)　問題意識を持たせ，相手の話を聞くことを指導しましょう。

ア　問題の概要【活用問題】

1 (1) 話の中心を捉えて聞く。 第２学年「話・聞」(1) エ　　正答率　ア 41%　イ 24%

イ　誤答分析

(ｱ)　誤答を見ると，話し手が「ボランティア活動を行っていること」「住みやすい地域をつくることを目的としていること」など，大まかに内容を捉えて聞くことはできています。しかし，「ボランティアの具体的な活動」や「住みやすい地域をみんなでつくることを目的としていること」を正しく聞き取ることができていませんでした。

(ｲ)　この問題では，聞き手の質問に答える話し手の回答について，話の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見を聞き分ける力が求められています。聞き手の質問に答える話し手の回答から，話の要点は何かを考え，メモを取りながら細部を聞き取り，話全体がどのようにまとめられているかを捉えることが不十分だったと考えられます。

ウ　指導上の留意点【関連問題小５－１（２）】

(ｱ)　第２学年では，第１学年の学習を受けて，話の中心的な部分と付加的な部分とを聞き分け，話の要点はどのようなことであり，それはどのような事実に基づいているのかを捉え，話全体がどのようにまとめられているか考える学習をする必要があります。

(ｲ)　聞くことの指導をする際には，問題意識を持たせ相手の話を聞くように指導することが大切です。今回の問題では，ボランティア活動を行っている人物にインタビューをする状況で話を聞くのですから，目的や活動内容，活動場所などを予想しながら聞くように指導することです。また，聞く際には以下の点に注意して聞くように指導しましょう。

- 話の展開に注意して聞きながら，話の中心的な部分と付加的な部分を考えながら聞く。
- 話し手の考えがどのような事実に基づいているのかを捉えさせ，自分の考えと比べながら聞く。
- 小見出しや番号を付けたり，図や矢印を活用したりして整理しながら聞く。
- メモを基に聞き取ったことをグループで説明し合いながら，自分の聞き方を振り返る。

これらの聞く力は，他教科等の学習においても発揮される力ですので，国語の学習で身に付けた力を実生活で役立てることができるよう，様々な場面で指導していきましょう。

(2)　敬語のもつ働き・基本となる尊敬語，謙譲語，丁寧語について十分に理解させる学習活動を行いましょう。

ア　問題の概要　【記述問題】

3 (3) 敬語の働きについて理解し，正しい敬語に直すことができる。 第２学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ　(ｱ)　正答率　25%

イ　誤答分析

(ｱ)　無解答率は 16%でした。誤答を分析すると，「(先生が) 拝見した」という間違いを指摘し「ご覧になった」と正しく直すところを,「うかがいたい」を間違いとして「おうかがいしたい」「お聞きしたい」と答える生徒が多く見られました。

(ｲ)　この問題では,「敬意を表す対象」や「自分の立場を低めて相手に敬意を示す」という意味の「へりくだる」ということの正確なとらえが求められ,「謙譲語」の理解が不十分であることが考えられます。「作品を見た」のは「先生」であり,「感想を聞きたい」のは「自分」であることを踏まえて,適切に敬意を示すのにふさわしい敬語を選択する判断が曖昧になっていることが考えられます。

ウ　指導上の留意点

(ｱ)　「敬語」について学習する際に，誰がその動作を行っているのか「主語」をしっかりと考えさせることが必要です。また,自分と相手との関係性を判断し，敬意を示す相手に対してへりくだる謙譲語を用いるのか,相手に敬意を示して尊敬語を用いるのかを正確にとらえさせることも大切です。

(ｲ)　個別的・体験的な知識を整理して体系付けるとともに，人間関係の形成や維持における敬

語のもつ働き・基本となる尊敬語，謙譲語，丁寧語について十分に理解させるとともに,相手との関係性を判断して尊敬語と謙譲語を適切に使い分けさせることも必要です。

(3)　場面の描写と登場人物の様子や心情をとらえ，表現の仕方と結び付けて読む学習活動を充実させましょう。

ア　問題の概要　【活用問題】

4 (2) B 登場人物の行動から，心情をとらえることができる。 第２学年「読」(1) イ　正答率　37%

イ　誤答分析

(ｱ)　無解答率は 29%でした。誤答を分析すると，本文後半で描かれている「僕」の気持ちの変化の根拠となる表現「脱帽」「すごい」「ほめた」「かなわなかった」等から「僕」が「竹ちゃん」に抱いている「尊敬」や「誇らしい」といった心情を捉えるところまで至らなかった解答例が多く見られました。

ウ　指導上の留意点【関連問題　小５－４ (2) A】

(ｱ)　この問題では，第１学年の「ウ　場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること」を受けて，情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果について考えることが重要です。

(ｲ)　登場人物「僕」の言動が，話の展開や作品全体に表れた「竹ちゃん」に対する見方，考え方，思いなどにどのようにかかわっているかを考えることが，文章の理解を深めることにつながりますが，生徒の限られた経験や知識を基に登場人物の言動から心情等を想像して読むことは難しい面も見られるため,「読書活動」を効果的に位置付け，読書による疑似体験をとおして，根拠に基づいて想像して読む力を身に付けさせていくことも有効です。

【展開例１　参照】

(4)　文章の構成や展開，表現の仕方について自分の考えを伝え合う学習活動を行いましょう。

ア　問題の概要　【経年比較問題】

5 (4) 文章の構成や展開をとらえる。　第２学年「読」(1) ウ　正答率 45%

イ　誤答分析

(ｱ)　全体の 23%の生徒が誤答選択肢の【２】を，21%の生徒が誤答選択肢の【４】を選択しており，誤答は大きくこの２つに分かれました。話題提示の段落は捉えられているものの,「守・破・離」のそれぞれの内容のまとまりを捉えきれていなかったことが推測されます。

(ｲ)　この問題では，文章の全体を俯瞰して,「守・破・離」について説明をしている内容と各段落の役割を具体的に考えながら文章の構成や展開をとらえることが求められます。誤答を選択した生徒は,「ところで」「そして」の接続詞や「それは」「このような」の指示語に着目してはいるものの，形式段落５段落以降において「破」の内容と必然性について説明している役割があることと，９段落「離」の意義や価値について説明している役割に注意して読む力が不足していることが考えられます。

ウ　指導上の留意点

第２学年では，表現の特徴について考えた第１学年の学習を受けて，文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめることを重視しています。例えば，文章の構成や展開，表現の工夫について，自分の考えを書いたり発表したりする際には，自分の考えの根拠となる段落や部分などを挙げることが大切です。また，そのように表現した書き手の目的や意図，また，その効果について考えることも大切にしたい活動です。

【展開例２　参照】

【展開例１】

【物語文などの文章を読み，登場人物の言動の意味などを考え，心情を読み取る活動を位置付けた展開例】

学習例　上野　哲也「ニライカナイの空で」より（平成 29 年度岩手県中学校学習定着度状況調査　中学校第２学年国語　4）

「C　読むこと」の指導事項 イ を言語活動例ア　を通して指導する場合の評価規準例
「物語文を読んで，場面の展開や登場人物の描写に注意して読み，内容や表現の仕方を根拠とし，感想を交流している。」

物語文等を読む際には，「言葉」を手掛かりとしながら登場人物の心情，書き手の思いや価値観，表現の仕方について感想をもち交流することが必要です。また，交流することを前提とすることで，登場人物の言動を表す描写に着目し，他の叙述や場面の展開等を根拠としながら，感想の対象となった部分や表現の特徴などを指摘する等，相手意識をもち自分の感想をより具体性のあるものとすることができます。

【第１時　学習内容】
・学習の見通しをもち，教材文中に描かれた登場人物の言動を表す描写に着目し，他の叙述や場面の展開等も根拠とし，自分の経験等とも関連付けながら感想をもつ。

【家庭学習との連動】
第１時で書いた感想を，第２時で交流するために根拠となる描写に着目して書かれているか，教材文を読み直すことにより確認し，ノートにまとめる。

【第２時　学習内容】
・第１時でもった感想を，登場人物の言動を表す描写や他の叙述等を根拠として明確にした感想を交流している。
・他の人の感想について，自分の感想との共通点や相違点に着目しながら交流する。

学習の「見通し」
「ニライカナイの空」を読み，初発の感想を書く段階において，根拠となる登場人物の言動を表す描写または，他の叙述や場面の展開等と関連付けながら書くという視点を示し，具体的に感想を書くことを意識させる。

学習後の生徒の「振り返り」
物語を読み，登場人物の言動や他の叙述との関連に注目することによって，根拠をもってより具体的に心情に迫ることができた。グループで感想を交流することによって「かなわない」「脱帽」等の言葉から「尊敬」や「誇らしい」といった「僕」の心情が導き出せた。

【第１時　指導のポイント】
1　本時の学習の流れを確認する。
2　教材文の範読を聞く。
→生徒に聞く視点を与えた上で範読を行う。
①　登場人物の言動を表す描写にサイドラインを引く。
②　登場人物の言動と関連性のありそうな描写にもサイドラインを引く。
※　「読めない漢字にはふりがなをふる」「意味の分からない言葉に印をつけ，家庭学習等で辞書を用い意味を調べる」等は日常から行うようにする。
3　初発の感想をノートに書く。
→感想の根拠となる描写に触れさせる。
4　ペア，グループ等で交流する。
→安心感をもたせた後，全体で交流を行う。
5　本時の学習のまとめ，振り返りを行う。

【第２時　指導のポイント】
1　本時の学習の流れを確認する。
→第１時で書いた感想に,本文の描写に基づいた根拠が示されているかを確認した上で交流を行うことを確認する。
2　自分の感想の根拠となる描写等に着目しながら書かれているかペアで確認をする。
→感想の良し悪しではなく,あくまでも根拠が明確であるかどうかに視点を置く。
→感想を交流する上で,相手に自分の感想が根拠を基にして確実に伝わっているか,相手意識をもたせること，グループ交流を前にして,安心感を与える意図で確認を行う。
3　グループ（４人組等）で感想の交流を行う。
→生徒に聞く視点を与えた上で交流を行う。
①　教材文中の描写を根拠として感想が書かれているか。
②　自分のもった感想との共通点・相違点について（特に、根拠が同じであるにもかかわらず，感想に違いが見られたところについては，注目して聞く。
4　感想を交流して気が付いたこと等を全体で共有する。
→根拠が同じで違う感想や感想が同じでも根拠が異なるものについて着目させる。(交流することにより、多角的な見方や多様性について理解させる。)
5　本時の学習のまとめ，振り返りを行う。

【展開例２】

【説明文を読み，文章の構成や展開，表現の仕方について自分の考えを伝え合う活動を位置付けた展開例】

学習材　畑村洋太郎「組織を強くする　技術の伝え方」より

（平成 29 年度岩手県中学校学習定着度状況調査　中学校第 2 学年国語 5）

学習活動	指導上のポイント
1　本時の課題を把握する。 畑村さんの説明文の書き方（構成、展開、表現の工夫）とその効果をとらえ、自分の考えを伝えよう。	
2　内容を意味段落ごとに捉え，文章構成を確かめる。	・四つの意味段落で構成されていることを確かめる。 1－2・3・4－5・6・7・8－9
3　書き方とその効果をとらえる。（個人） 【展開に着目した考え】 畑村さんは，５～８段落で「破」の説明とその重要性を述べている。７段落で「守」を肯定的にとらえつつ，８段落では，「破」の重要性を述べている。 ５・６段落に７・８段落を付け加えたことで，読み手に，「破」の大切さがよく伝わってくる。	・グループ学習では、「どのように書かれているのか」「どこからそのように考えたのか」を質問し合いながら内容を確かめ、考えの根拠が明確になるようにする。
4　書き方とその効果の根拠が明確に示されているか確かめる。（グループ） 【グループの学び合いの様子例】 A　畑村さんは，読み手が説得させられるような書き方をしていると思わない？ B　どこからそう思うの？ A　短い文章で，「です。」「ます。」と断定した述べ方をしているでしょ。 B　そうそう，僕もそう思った。 C　D さんはどう思う？	
5　本時の学習を振り返る。	